

「多くの者との平和 聖書預言とのアップデート」2020.08.16

<https://www.youtube.com/watch?v=WPJtdmKfUs0&t=18s>

『多くの者との平和』さておはようございます、私たちの毎週の聖書預言アップデートへようこそ。オンラインで参加していただき、とても嬉しいです。また、ハワイ時間の午前11時15分からのライブ配信にもご参加されることをお勧めします。それは日曜日の朝の説教、第二礼拝で、私たちは聖書を節ごとに学び、現在第一テモテを学んでいます。今それをお知らせしたいのは、「人は敵ではない」という話をするからです。彼らは、「チャンス」です。特に私たちに反対し、私たちに同意しない人たちの場合です。こんにち、それが本当に悪化している事に皆さんも同意されるかと思います。多くの人々がお互いに議論し、争い、互いに戦っています。世と肉と悪魔で十分でないかのごとく、他の人々まで参戦しています。...なので私は今日、その件について話したいと思います。聖書箇所は第一テモテ2章1～4節です。皆さん本当にご参加されることをお勧めします。今日は、木曜日の夜の、週半ばの聖書の学びでお伝えしたように、木曜日のアラブ首長国連邦(UAE)とイスラエルの和平合意についての預言的意義を見ていきます。しかしそうするためには、本題に入る前に、主が私の心に与えられた思いを皆さんに誠実にお分かちするのが私の義務だと思います。それによって皆さんはより良く理解できるでしょう。この危機が最初に起こった3月のことですが、主が私に「COVID-19/コロナウィルス」というレンズを通して、すべての事を再考するよう示唆されているように感じました。皆さんも私みただったら、-そうだと思いますが- こんな事になるとは思わなかったでしょう。私は思っていませんでした。そのため、全てを考慮しなくてはならなくなりました。考慮から外せるものは何もありません。とりわけ聖書預言に関して 私たちが真実であると知っていた全ての事を再考しなければなりません。その理由は、すべてが一夜にして変わったように見えるからです。しかも、それがかつて見たことがなく、そしておそらく二度と見ることはないような地球的規模で起こりました。4月下旬、5月初旬に明らかになったのは、今まで私たちが知っていた世界は、いわゆる 帰還不能点を過ぎてしまったという事です。実際、私たちは一回分のアップデートを 帰還不能点を過ぎたというまさにそのトピックに充てました。そのため、毎週の預言アップデートの焦点が 中東の地政学的なものから、ほぼ排他的にこの危機に移ったのです。そうすることで、私は多くの皆さんから多くのことを学びました。特に、私に多くの情報を送ってくださった医療分野にいるオンラインの皆さんから。私はその情報を頂いてから、私たちの目の前で起こっている事と、聖書が起こると語っている事とを繋げて、預言的な全体像をつかむために最善を尽くしました。3月からご一緒いただいている方々にとっては、かなり目から鱗のような、身の毛がよだつような体験でした。皆さんにとっては、ですよ。私には毛はもうそれほどないので。しかし間違いなく、それは目を見張るものでした。こう言うのをお許し願いますが、この「捏造された危機」の背後にある真の策略が明らかになって行きましたから。これには本当は何の目的があるのか？ 本当は何が起こっているのか？ また、それがどこに向かっているのか？ あれからほぼ6か月後の今、8月中旬になり、日ごとに新しい情報と新しい啓示さえももたらされています。しかし私にしてみれば、預言というパズルに適切にはめられねばならないピースがまだ見つかっていませんでした。それはイスラエルについてのピースでした。それは全てどのように結びつくのか？ これが始まって以来、私が尋ねてきた疑問は、この世界的危機は、預言上、イスラエルの中心性と どう適合するのか？ というものでした。木曜日に行われた ホワイトハウスの発表を皮切りに、この前述の和平合意に入ります。一以下

引用ー「ドナルド・J・トランプ大統領は、当該地域の平和と繁栄を促進するため、イスラエルとアラブ首長国連邦間の歴史的な契約を確保した。」私はこの発表から、いくつか引用を読みます。「トランプ大統領は、中東の人々のための平和と安全と機会を達成するために新たなアプローチをとる時が来たと認識した。この歴史的な急進展は、トランプ大統領の指導力と取引を成功させる者としての専門知識によって可能になった。」別の抜粋を引用します。「この合意は、安定、安全、機会を伴った真の（興味深い言葉です）”変革的なコース”へとその地域を導くのに役立つであろう。」「この合意は、（お聞きください）イスラエルとパレスチナ間、またその地域における包括的で公正かつ現実的な恒久平和を見出すための大統領のビジョンをさらに前進させることを可能にする。」またホワイトハウスは木曜日に、米国、イスラエル国家、アラブ首長国連邦による共同声明を発表した。」2つ引用します。お聞きください。「アラブ首長国連邦とイスラエル国家はコロナウイルスの治療とワクチン開発に関する協力を直ちに拡大し加速させる。（興味深い言葉です。）協力することで、これらの取り組みは、地域全体でイスラム教徒、ユダヤ教徒、キリスト教徒の命を救うのに有益だ。」共同声明は続きます。再び私は引用します。非常に重要です。「平和のためのビジョンに定められている通り、平和に訪れるイスラム教徒は全員、アル・アクサ・モスクを訪れ、祈ることができ、エルサレムの他の聖地は、すべての宗教の平和的礼拝者に対し解放され続けるべきだ。」引用終了。

画面の写真は大統領の正式発表時のスクリーンショットで、その中で彼は以下のように述べています。再度引用します。「それは”アブラハム協定”として知られるものになる。大使のデビッド・フリードマンに、我々がアブラハム協定と呼ぶ理由を説明してもらおうと思います。デビッド？」そこでフリードマンが言います。以下引用「大統領、ありがとうございます。この歴史的な和平合意の仲介をお祝い申し上げます。アブラハムは、多くの人々が周知の通り三大宗教の父です。彼は、キリスト教信仰ではアブラハム、イスラム教信仰ではイブラヒム、ユダヤ教信仰ではアブラハムと呼ばれています。そしてアブラハム以上に、これら3大宗教間の統一の可能性をうまく象徴する人物はいません。それがこの合意がそのように命名された理由です。」引用を終了。トランプがそれに返答します。再度引用。

「それは素晴らしい、素晴らしいことだ。これがドナルド・J・トランプ協定と呼ばれるのを望んでいたが、報道機関がそれを理解するとは思わなかった。残念だがそうはしなかった。」また木曜日、ジャレッド・クシュナーによる別の会見がありました。彼は言いました。再度引用します。「トランプ大統領はイスラエルに、パレスチナ人との二国家解決をする事を合意させることが出来た。そして史上初めて、それを実現させるために、彼らを取り扱う意思のある領土の輪郭を描いた地図への合意を得ることが出来た。それはイスラエルが本気であることを地域の多くの人々に示した。」（これは興味深いです。）イスラエルが本気ですって？「イスラエルは前進し、和平を生み出すことに本気だった。またそれは、トランプ大統領の指導力と外交術が、今まで実現しなかった事を実現させることができることも彼らに示した。何が起こったかという、イスラエルがイスラエルの法律と主権（キーワード）をヨルダン川西岸地区に持ち出し、適用することを我々と話し合っていると…我々はこの6週間、その議論をしていたのですが、アラブ首長国連邦とイスラエルの間で、これが異なる道として可能性のあるものだという議論が加速し始めました。」引用終了。いいでしょう。呼吸を整えさせてください。多くの人の意見に反するかもしれませんが、これは本当に悪い事だと言わせてもらいます。これは良い取引ではありません。事実、敢えて言わせてもらおうと、これは悪魔からのものです。今のが強烈だったのは分かっていますが、皆さんがお許し下さるなら、これを整理したいと思います。その理由と預言的意義もお伝えて

きるよう 最善を尽くしたいと思います。皆さん、私がこれを露骨に言うのを お許しいただきたいのですが、これは、文字通り、まさに正確に、厳密に、聖書預言によるところの終わり方です。そこで、これからお話しするのは、何が起こり得るのか、また、それだけでなく、それがいかに迅速に起こり得るかについての もっともらしいシナリオです。この言葉を使っている理由は、皆さんの多くの方がご存知の通り、ヨハネの黙示録の中でイエスは「見よ、わたしはすぐに来る。」と仰っているからです。そして、新約聖書の原語のギリシャ語で この言葉はタコス。メキシコ料理のタコスやタコポケではありません。それはタコスで、そこから英語のタコメーターが 派生しています。1分間の回転数(RPM)を測る測定基準です。イエスが仰っていたことは「見よ、わたしは物事が勢いづいてくる時に来る。」私は、私たちが最大回転数(レッドゾーン)に入っていると申し上げます。私たちはそこにいます。ですから、私がやりたいことは、、、 網羅するものではありませんが、7つの...私は7という番号が好きです。完全数です。もっとありますけど、このもっともらしい シナリオにおいて7つ、聖書に語られている 重要な預言に基づいているものです。

一つ目。神の預言の時計上の次の出来事は、イエス・キリストの教会の携挙です。それはいつでも起こり得ます。先週お見えにならなかった方や YouTube のビデオを見ておられない皆さん、私たちは、預言アップデートの時間を全部使って 教会携挙が7年間の患難前に起こらねばならない事を 証明する7つの理由を挙げました。今、私はある理由があって、第二テサロニケ2章3節と4節を参照します。そして実際、4節も今日この後で出てきます。私がこの聖句を使う主な理由の一つは、3節の解釈のためです。これについては6月14日に話しました。残念ながら、私たちはこれを 先ず起こらねばならない背教(アポスタシー)と 翻訳してきました。6月14日に、第二テサロニケ人への手紙を 節ごとに学んでいて、(2章)3節に入ったとき、私たちは その節だけに学びの時間全体を費やしました。第二テサロニケ2章3節で使徒パウロが 語っているのが、教会の背教の事ではなく、 教会が捕られる事だというのは何故かについて。3節と4節を読ませてください。聖霊によって、使徒パウロが書いています。

「どんな手段によっても、だれにもだまされてはいけません。主の日(7年間の患難時代)は、まず背教[出発](携挙の意味)が起こり、不法の者、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないのです。」(第二テサロニケ人2章3節)

言い換えれば、教会が取り除かれるまで、反キリストの正体は明らかになりません。さて、4節に耳を傾けてください。繰り返しますが、これはまもなく話題に入ってきます。「不法の者は(反キリスト)、、、 明らかになり、、、」 教会が携挙されてから、反キリストが登場します。

「不法の者は、すべて神と呼ばれるもの、礼拝されるものに対抗して自分を高く上げ、ついには自分こそ神であると宣言して、神の宮にすわることとなります。」(第二テサロニケ人2章4節)

わお～！これが意味する事は、早い段階、可能性としては7年間の患難時代の初めに、今日お話しするこの取引の一部、和平協定には 第三神殿の再建が含まれる事です。なぜなら、反キリストがこれを行うとき、それは 神殿が存在し、再建済みである事を 前提としているからです。私が、信頼できる情報筋から聞いたところでは、イスラエルは神殿を再建する許可を得れば、たぶん90日以内に再建できるそうです。それをじっくり考えてみて下さい。90日です。彼らには用意があります。ずいぶん前から、彼らには全ての資材が整っています。コンピュータ技術とDNAのおかげで、神殿で仕えるべきレビ族に属する人たちが誰かも分かっています。赤雌牛の灰は？ 準備済。祭司や大祭司の器具は？ 準備済。契約の箱は？ お～非常に興味深いですね。準備済。すべて準備出来てます。彼らはただ建設許可を待つて

いるだけです。そして、本当に彼らはそれが時間の問題だと信じています。それは「突然」、「速やかに」起こると思います。それがこのシナリオにおける二番目です。繰り返しますが、これらの事は突然、速やかに起こり得るだけでなく、同時に起こる可能性もあることを理解してください。どういう意味かというと、教会の携挙は、第一テサロニケの5章3節に記載されている突然の破壊と同時に起こり得るという意味です。言い換えれば、私たちが上にあがる時、突然の破壊が降りかかる。そしてパウロが言うように、それは「私たちに」ではなく、「彼らに」です。だから私は「私たち」の中に入りたいのです。「彼ら」ではなく。なぜなら、生き残っている「私たち」は引き上げられるからです。私たちは「私たち」です。私たちは「彼ら」でも「彼らに」でもありません。パウロは**第一テサロニケ5章3節**で語っています。「**人々が、『平和だ、安全だ』と言っているとき、...**」一平和と保障—新約聖書原語のギリシャ語では同じ言葉です。アスファリア。翻訳すると保障、あるいは安全。

「**...妊婦に産みの苦しみが臨むように、"突然"の破滅が彼らを襲います。**...突然に。突然の破滅...、この突然の破壊について言うと、私はかわい子ぶるつもりはありませんが、それは非常に突然なんです。突然の破滅...妊婦に産みの苦しみが臨むように、彼がこう言った後に、何と言うかをお聞きください。彼はそれを陣痛を起こしている女性になぞらえます。陣痛の痛みがより強く、より頻度が高くなり...、突然に。そして、こう言います。「**... (彼らは) それを逃れることは決してできません。**」さて、なぜ私はそこを強調するのでしょうか？なぜなら、この節にその詳細を含める必要があるのは何故でしょう？私は、そこには、逃れる人がいる事が暗示されていると提案します。彼らは逃げることは出来ません。「ああパウロ、誰が逃れるのですか？」「私たちが、逃れるのです。」このために、携挙はしばしば大脱出と呼ばれているのです。実際、多分皆さんがそれを聞いたのは反感を持っている人から、否定的な意味で言われたことでしょう。そして、彼らはこう言うでしょう。「ああ君たち、患難前説擁護者たちは、ただ逃げたいだけだ！」それに対して私が言うのは...「もちろんそうだよ～！！あなたはそうじゃないの？」それは脱出であり、私たちは連れ出されます。私たちは逃れます。私たちは救出されます。私たちは携挙されます。しかし、彼らはそうではありません。彼らは携挙されません。彼らは逃げられないのです。彼らは救出されません。

3つ目。これはエゼキエル書38章です。この同盟国による侵略。同盟を結んだ国々がイスラエルに侵略します。1節から6節と、13節を手早く読ませてください。13節は先週私たちが見た事の鍵です。から。

「**次のような主のことばが私にあった。**」（エゼキエル 38：1）

「**人の子よ。メシエクとトバルの大首長である、マゴクの地のゴグに顔を向け、彼に預言せよ。**」（2節）

「**『神である主はこう言われる。メシエクとトバルの大首長であるゴグよ。今、わたしはおまえを敵とする。』**」（3節）

「**わたしはおまえを引き回し、おまえのあごに鉤をかけ、おまえと、おまえの全軍勢を出陣させる。それはみな完全に武装した馬や騎兵、大盾と盾を持ち、みな剣を取る大集団だ。**」（4節）

5節に、イスラエルへの侵攻において、同盟を組む国々のリストが、古代の名前で書かれています。

「**ペルシャ（イラン）とクシュとプテ（エチオピア・スーダンの辺り）も彼らとともにいて、みな盾を持ち、かぶとを着けている。**」（5節）

「**ゴメルとそのすべての軍隊、北の果てのベテ・トガルマと...**（ベテ＝アラビア語・ヘブライ語で「家）」

(トガルマ=現代のトルコとして知られている 地域であると信じられています。)

...そのすべての軍隊、それに多くの国々の民が おまえとともにいる。」(6節)

では、13節に注目してください。今回のアラブ首長国連邦とイスラエルの合意の重要性を 理解するのに 密接に関わっていますから。私たちに告げられているのは、 シェバとデダン...地図を見ると… 皆さんこうなされることをお勧めします。アラブ首長国連邦、オマーン、サウジアラビアの 地図をググって見て下さい。彼らは基本的にすべて隣人です。それはみな、古代のシェバとデダンのあった地域です。サウジアラビアがその中の最たるものです。本当に興味深いのは..ところで今朝、私はベンジャミン・ネタニヤフ首相の インタビューを聞いていましたが、彼はサウジアラビアは署名する準備ができています と言ったも同然でした。オマーンもです。アラブ首長国連邦が、言わば 基本的に道を切り開いたので、この地域全体が…あとは、言ってみれば、時間の問題です。サウジアラビアは既にイスラエルと 非常に親密な関係にあって、彼らがそれを正式なものにするのは 時間の問題です。だから、預言者エゼキエルが語っているのは、「シェバやデダン(=サウジアラビア) や、…」 湾岸のその地域、それらの湾岸諸国が、
「...タルシシュの商人たち、(タルシシュが誰なのか、 色々と憶測が飛び交っています。)およびそのすべての若い獅子たちは、 おまえに言うだろう。『おまえは分捕る為に来たのか。 獲物を掠め奪うために 隊を構えたのか。 銀や金を運び去り、家畜や財産を取り、 大いに略奪しようとするつもりか』と。」(エゼキエル 38:13)

言い換えれば、 サウジアラビアとタルシシュと若い国々、 或いはいくつかの訳では若い獅子たちは、 ロシア、イラン、トルコを中心とした同盟が 戦利品を分捕るためイスラエルを侵略するとき、 彼らは単に抗議するだけです。イスラエルが持っているもの、それが侵略の目的なのです。ところでネタバレ注意。38章と39章を読みたい皆さん、それはあまり上手く行きません。そんな風に言わせてください。実際、彼らは神の御手によって、 神ご自身によって取り扱われます。事実、神は、預言者エゼキエルを通して 38章で仰います。

「わたしは、わたしの大いなることを示し、 -中略- そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。」(エゼキエル 38:23)

神がなさるのです!!! 神はそれをなさらなければならない・・・ と言うのも、他に方法はありません。ここにイスラエル(小国)があります。ここにロシア、イラン、トルコなどの大国、 彼らは揃って小さなイスラエルに向かって来ます。私を含めて、一部の人たちが信じているのは、この壊滅的な圧倒的な敗北は、実際にそれは神ご自身が達成される これらの同盟国、侵略軍の全滅ですが、それは約24時間以内で終わるでしょう。それをよく考えて下さい。これが起こる時。では、なぜこの合意は、預言的にそんなに意義があるのでしょうか? 簡単に言えば、これはまさに預言者エゼキエルが2500年以上前に、起こると語っていた事だからです。この侵略が起こること、そして、どういうわけか、これらの湾岸諸国やアラブ諸国は、この侵略に関与しないだけではなく、彼らが実際にこの侵略に抗議する事です。それは、彼らがイスラエルと何らかの和平合意を 結んでいたことを示唆しています。じゃじゃーん! たぶん余談として、また興味深いのは、このエゼキエル38章の預言に記されている 国々の中で不在が目立つのは、ヨルダンとエジプトです。なぜでしょうか? ああ、彼らはイスラエルと 和平合意を結んでいるから。また、シリアは記されていません。なぜでしょうか。イザヤ書17章1節にある預言のせいだと 私は心から信じています。ダマスカスが住めなくなるほど破滅的な 瓦礫の山となる事についての 非常に具体的な預言です。それはシリアのダマスカスの突然の破壊です。その時に、彼らはシリ

アを經由して来ます。なお、彼らは既にシリアに居ます。既に準備ができています。そして、彼らはまさに私たちに告げられている通りに、イスラエルを侵略するでしょう。この合意は、私が信じるどころでは、もっと良い表現がないので、この様に言いますが、やはり私はかわい子ぶったり、賢ぶっているわけではありません。しかし、この合意は、エゼキエル書 38 章にある この預言を超高速に乗せました。そして、私がこれもまた超高速になった と信じているのは、ダニエル書 9 章 27 節の非常に詳細な預言です。これについて少し時間を費やしたいと思います。これは 7 年間の和平合意に関する預言です。また先に述べた通り、私は、それが 第三神殿再建を含むことになる と信じています。また先週話した通り、教会の携挙は 7 年間の患難時代を 始めるものではありません。7 年間の患難を始めるのは、ここ ダニエル書 9 章 27 節の 7 年間の和平合意です。では腕まくりをして、この非常に詳細な預言に 取り組みましょう。私はここでいくつかの事を 指摘したいと思います。彼 (反キリスト) は、契約を (結び) 固めます。さて、この「固める」という単語は、原語のヘブライ語では 非常に興味深い単語で、私の母語アラビア語でも同じ言葉です。アラビア語とヘブライ語には 同じ言葉がたくさんあります。それは、ヘクビールという言葉です。それはちょっとアクバールみたいで、ヘクビール... アクバールは「もっと偉大な」という意味。ヘクビールは、より優れた、より壮大な、より良い、という意味です。だからこの預言が言っているのは、反キリストが (その契約を) より偉大で、より優れたものにする、と... ところで補足的にこの事を言うべきでしょう。イスラム教徒が「アッラー・アクバール」と言うのは、彼らは「神は偉大である」と 言ってるものではありません。どうかどうかご理解ください。アッラーは神の称号ではなく、「神」と同義語ではありません。アッラーは、彼らの偽りの神の名前です。イスラム教は偽りの宗教であり、モハメッドは偽預言者であり、アッラーは偽りの神です。彼らがアラビア語で「アッラー・アクバル」と言う時、彼らは「神は偉大」「アッラーは偉大だ」と 言っているではありません。「アッラーは、より偉大だ！」と言っているのです。それは全体の様相を変えますね。これに関する私たちの理解に再び密接に関係するので、あとでまたこれに戻ってきます。誰よりもより偉大なのですか〜? 言い換えれば、より偉大になるには、それを より偉大にするためには まず先に偉大なものが 必要になります。私の言いたいことが分かりますか? それがこの言葉の意味です。元々何かがあるからこそ、それよりも、もっと良く、より偉大で、優れたものが 作れるのです。そして、反キリストがするのはその事です。彼は、「多くの者との(キーワードです)」この契約を より大きく、より優れた、より壮大にします。イスラエルだけでなく、イスラエルと共に多くの国々と。一週の間=7 の期間 (7 年間)。これはダニエルの第 70 週、別名「ヤコブの苦難の時」。因みにすぐにこの事について話しますが、7 年間の患難は、ヤコブの苦難の時です。あなたはヤコブですか? あなたがヤコブという名前かという事ではないです。あなたがヤコブさんなら、私たちはあなたを愛しています。それはあなたの苦難ではなくあなたの問題ではありません。私が言っているのはヤコブ=ヤアコブ、別名イスラエルのことです。ヤコブはイスラエルです。それはイスラエルの苦難と困難の時であり、教会のではありません。それが 7 年間の患難です。ダニエルの第 70 週。それはヤコブの苦難の時。それは 7 年間の患難時代です。そしてこの合意を 固め、より力強く、より優れたものにする事が、7 年間の患難時代を始めることとなります。とても詳細が多くて、まだその節の半分も終わっていません。皆さん、もっと行っていいですか? 7 年のど真ん中、3 年半、1260 日間、非常に具体的ですよ? さて、中間点、この 3 年半の時点で、何が起こるのでしょうか? 尋ねてください、とても嬉しいです。私たちには答えがありますから。反キリストが、生贄と献げ物を廃止します。そして神殿で、、、 第二テサロニケ 2 章 4 節、彼は定められた終わ

りが彼の上に注がれるまで、荒廃をもたらす忌むべきことをします。私と一緒にこれを考えてみてください。7年間の患難を開始する和平合意があります。ユダヤ人は神殿を再建します。反キリストは救世主として称賛されます。人類歴史の中で誰もこれを行えなかったこと、彼はそれをしたのです。あ〜ところで、こんにちのイスラエルですが、彼らは真の救世主を拒絶したから、反キリストを受け入れます。ちなみに「アンチ=反」とは、必ずしも反対だけを意味するわけではありません。「代わりに」という意味もあります。彼らはこの偽の救世主を受け入れます。私は、ユダヤ人のラビたちが歌を歌っている1980年のビデオを持っています。「私たちは今、私たちの救世主がほしい♪ 私たちは今、私たちの救世主がほしい♪」皆さん、こんにちイスラエルに行くと、彼らは、救世主が現れようとしていると教えてくれます。それは真の救世主、イエスではありません。3年半の節目で彼らは気づきます。「ちょっと待てよ。これって私たちの救世主じゃないぞ。」「もし彼が本当に私たちの救世主だったら、こんな忌むべき事はしない。」「もし彼が本当に私たちの救世主だったら、こんな事はしないはずだ。」彼は荒廃をもたらし、その荒廃はユダヤ人に、彼らのために準備されている場所へと逃げさせます。この事については、黙示録に預言があります。7年間の患難時代の後半の3年半、神ご自身が、彼らを守られます。反キリストから彼らを守られます。反キリストは彼らに突然敵対的になり、彼らを滅ぼそうとします。私はその場所は、現代のヨルダンにあると信じています。ペトラと呼ばれる興味深い場所です。私は実際にそこに行くことができました。私のいとこが、妻と私をそこに連れて行ってくれました。もし皆さんがいつか... 多分もう遅すぎるでしょうが、とにかく驚くべき場所です。私たちは1日しか居なかったのですが、1週間くらい必要です。それはすごく広大な岩の街で、文字通り、岩を削り出して造られています。侵入不可能な要塞です。この街へは非常に狭い入り口が一つあるだけです。そして、そこがユダヤ人がエルサレムから逃がれる場所です。マタイの福音書24章で、イエスはそれについて話しておられます。あなたがたの逃げるのが安息日にならないように祈りなさい、と。安息日には交通手段がすべて止められますから。(マタイ 24:20 参照) 身重でないことを祈りなさい。逃げるのに困難を要するから。それが冬ではないことを祈りなさい。本当に難しくなるから。それが安息日かつ冬で、且つ、あなたが身重でない事を祈りなさい。そうなったら悲惨だから。ごめんなさい。でも、お分かりでしょう？ 分かって貰えた事を願います。彼らは後半の3年半の間、エルサレムからペトラへ逃げるのです。実際、ある聖書学者がいて、これは1800年代のことで、彼はもう主のもとに召されていますが、彼は次の事をとて確信していました。7年の患難の最後の3年半の間、神がユダヤ人を守られると黙示録で語られている場所はペトラだ、と。そこで彼は真の救世主であるイエスについて書かれた聖書を土の器に入れて、その岩の町の至る所に隠しました。すごいですよね。私たちはそこを訪れた時、それを探しましたが、一つも見つかりませんでした。でも。。つまり、これが7年間の契約の中間点で起こることです。彼は、イスラエルに敵対します。彼の正体が明らかになります。彼はキリストではありません。彼は反キリストです。彼は荒らす忌むべきこの醜態を犯し、荒廃をもたらします。タイムラインについて言うと、これは非常に具体的です。私たちは、これが中間点で起こる事を知っています。エゼキエル書38章については、分かりません。多くの議論がありますが、それはすべて憶測に過ぎません。私は個人的には、それが7年の患難時代の最初に起こり、それが実際にこの和平協定をもたらすことになると信じていますが、独断ではありません。なぜなら、その壊滅と荒廃と全滅の後では？なんということ！平和が必要になるからです。黙示録11章2節には、この点で、もう一つ興味深い詳細な預言があります。ヨハネが書いています。

ヨハネの黙示録 11 章

2 「神殿の外の庭はそのままにしておきなさい。 それを測ってはいけない。 ...

なぜ？

...それは異邦人に与えられているからだ。 彼らは聖なる都を四十二か月の間（3年半・1260日）、踏みにじることになる。」

私がああ共同声明と、さらには ホワイトハウスの発表を読んだ時、アメリカ合衆国大統領が言った事には、興味深い詳細がありました。この地区、神殿の丘にあるアル・アクサ・モスクは、あらゆる信仰の人々が来て祈ることができる 場所であるべきだと。私はそれが黙示録 11 章 2 節の成就である と信じています。神殿の外の庭。 イスラエルに行って神殿の丘に 行くことが出来た事のある皆さん、いつも神殿の丘に行けるとは限らないんです。しかし前回、私が神殿の丘に最後に行ったのは、2015 年だったと思います。それは、ただただ息を呑むばかりです。 と言うのも、神殿が建つと分かっている所に立って、そして 3 年半の間、異邦人が踏みにじる事になる 「神殿の外の庭」の方を見ます。そこには、他の諸宗教の信者が来るのです。 黙示録 11 章 2 節にある通りに。すぐそこにあるんです。 私たちに告げられている通りに。その部分を測ってはいけない。... その理由はこれです。アル・アクサ・モスクについて、大統領が こんなに具体的にこの場所の話をするのは 非常に興味深いことです。なぜなら、それはまさに神殿の外の庭で起こると まさに私たちに告げられている通りですから。

4 つ目。先に進めます。これは... エルサレムの分断です。二国家解決です。それはエルサレムを 2 つに分断し、 いわゆるパレスチナ人とユダヤ人に その都市、首都を与える事。これは二国家解決であり、これについては 私は以前に何度もお話ししました。しかし、私は二国家解決とは、ヒトラーの「最終的解決」が包み直されたものだ と絶対的に確信しています。なぜなら、彼らはイスラエルとの平和や、イスラエルと並立する国家を 望んではいないからです。彼らが望んでいるのは、イスラエルの破滅であり、彼らはそれをはっきりと明確にしました。ゼカリヤ書 12 章 1-3 節のこの預言は、やはり、非常に具体的なもので、エルサレムを分断する者に関して 神が何をなさるかが述べられています。お聞きください。

ゼカリヤ書 12 章

1 宣告。イスラエルについての主のことば。...

いくつかの翻訳では、イスラエルに関する預言という意味です。

「...天を張り、地の基を定め、人の霊をそのうちに造られた方、主の告げられたことば。」(1 節)

「『見よ。わたしはエルサレムを、その周りの あらゆる民をよろめかせる杯とする。エルサレムが包囲されると、ユダについてもそうなる。』(2 節)

「...その日、わたしはエルサレムを、どの民にとっても 重い石（負担の大きい石・境界石）とする。...
...すべてそれを担ぐ者(それを与え、分断する者)は、身にひどい傷を受ける（分断される）。地のすべての国々は、それに向かって集まって来る。』(3 節)

言い換えれば、「あなたはエルサレムを分断するつもりか？ それは わたしの街である。」「それは所有者としてわたしが名前を 置いた街である。」ちなみに、以前のアップデートで話したように、文字通りにそうになっています。神の御名が文字通りに エルサレムの街の上にあります。それはとても興味のそそられる詳細です。「わたしの街を分断するつもりなら、わたしがあなたを分断しよう。どうだ？」神が仰っているのは そういう事です。「わたしの地を分断したいのか？ ならば、わたしはあなたを分断しよう。」

ヨエル書 3 章 2 節。

「わたしはすべての国々を集め、彼らを ヨシヤファテの谷に連れて下り、わたしの民、わたしのゆずりイスラエルのために、そこで彼らをさばく。彼らはわたしの民を 国々の間に散らし、わたしの地を自分たちの間で 分配したのだ。」

世紀の取引が発表されたとき、私たちは預言アップデートを行いました。それは2月1日だったでしょうか。1月末に発表されましたから。そして私は、多くの人が「これは良い！」と言っているのに 従いませんでした。「これは良いものだ！」と。そして、私が181ページある その合意書を全部読むと…そのために 助けてもらわないといけませんでしたが特にデータや数字、金額、正確な情報などについては。しかし、私がたしか第12条項の38条、数字が逆かもしれません、そこに来た時、それは「主張の終わり、紛争の終わり」という条項でした。よくよく注意して読んでみると、いわゆるパレスチナとイスラエルの両方が、紛争を終結するために、エルサレムに関する全主張を 終わらせる事になっているのが分かります。なんですか？ お聞きください。私はエジプト出身の父とヨルダン出身の母親から 私たちはパレスチナ人だと言われて育ちました。私の母側の家系はパレスチナ人でした。そして、私が救われて、本当に神の言葉を勉強し始め、神の御言葉と、御言葉の神を知るようになって 初めて、私は気づき始めました。「ちょっと待って。いやいや、、彼らがパレスチナや、パレスチナ人という名称を使う理由。それはペリシテからの音訳です。ペリシテ人はもういません。彼らは絶滅しています。だから私は、「では、いったい私は誰なのか??? 「私の同胞はどこ誰？」 (中東アクセント)

エルサレムが破壊され、イスラエルが捕らえられた時、彼らはその当時の習慣にそって、彼らが征服した民の宿敵にちなんでそこを命名しました。イスラエルの宿敵であった民族は誰か？ ペリシテ人です。そこで彼らは最初にフィリスティアと名付けました。いえ、実際にはアエリア・カピトリーナと名付けましたそして彼らは最終的にそれを フィリスティアと名付けました。それからそれは、パレスチナと音訳されました。私の記憶が正しければ、それはの紀元135年のことだったと思います。それ以来、パレスチナとして知られています。それが理由です。ローマがそのように名前を変更したのです。ヤーセル・アラファート(元パレスチナの大統領)を 皆さん、ご存知ですか？彼はエジプト人でした。パレスチナ人ではありません。パレスチナ人というものは存在しません。私がこの事を言うのは、ただ、パレスチナやパレスチナ人がないのならば、パレスチナ国家というものは 存在しない事になるからです。

では、私たちはここで何をしているのでしょうか。これは本当は、どういう事でしょうか？ ええ、それはまさに 私たちに告げられている通りなのです。これが彼らがやろうとしている事。皆さんの顔つきから分かりますよ。こう思ってる方々がありますね。

「牧師先生！！ここでご自分の言ってる事、特に アメリカ合衆国大統領に関してどういう事を 言っているか、お気づきですか?」「はい。」問うべきは、それではありません。私がこの事の含意を認識しているかではなく、問うべきは、「あなたはどうか?」です。私は自惚れた印象を与えるつもりはありません。神は私の心を知っておられます。私は単純に聖書を教えているだけであり、これが聖書の語っている事なんです。そしてこれは良い事ではありません。私は、「いや、これはイスラエルにとって良い取引だ。」と 仰っている人がいる事をはっきりと認識しています。「私たちは平和を望んでいる。」では、ちょっとお待ちください。それは主権と西岸地区の併合を犠牲にして 成り立っています。「いやいや、それは差し当たり、議論から外れてるだけです。」そうでしょうか？ あなたはそう考えるんですね。私は多分そこまで踏み込むべきではなかったのですが、もうやっしまいました。次に進みます。

5つ目。 まだまだ先は長いです。皆さん、パジャマと歯ブラシを ご持参されているといいですけど。

5つ目。獣の印。繰り返しますが、私たちは正確には分かりませんが、これは反キリストが自分が崇拝されるのを要求する時、おそらく中間点当たりで起こると考えられています。彼は神の宮に座を設け、自分を高く上げ、神として崇拝されることを要求します。そして、獣と 獣の像を崇拝することを拒否する人々は...黙示録 13 章によると、獣の数字は 666 です。以前にも話した通り、彼らは斬首されます。なお、それは 7 月 12 日のアップデートで、そこで COVID-19 のワクチンが登場しました。私たちは 7 月 12 日にこれについて アップデートの時間を丸ごと使いました。ご興味がある方は、動画をご覧ください。しかし、私が信じているのは、獣の印は、現在はまだですけど、何であれ、将来このワクチンが成りゆく物になるという事です。なぜなら、ワクチンがデジタル ID になり、それがなければ、誰も元の生活や生計を 取り戻す事ができなくなるからです。繰り返しますが、私たちは 7 月 12 日に、 それについて明らかになって来た情報に基づいて、その事にアップデートの時間を全て使いました。今日はその為の時間を取れませんが、既に、私たちはそれを目にしています。私は、この和平合意にそれが含まれることは 非常に興味深いと思います。そして、ネタニヤフまでも、私が触れた 今朝のインタビューで、これを持ち出し、 それについて、しばらくの間、語りました。アラブ首長国連邦は今や、イスラエルと 国交を正常化したため、ワクチンが入手できます。このワクチンは言わば「ゴールデンチケット」と言えます。彼らはそれをちらつかせ、それを持っていない限り、あなたは生活を取り戻せないと言っています。その方向に向かっています。私が望むのは、…おそらく言うまでもない事で、あんまり時間をかけたくないのですが、皆さんが、私たちがかつて知っていたような生活に 戻る事は決してないだろうという事を 認識しておられる事を願います。3 月 29 日に行ったのが、「コロナウイルス・アップデート」というタイトルです。コロナウイルスに関する最初のアップデートで、私は次の発言をしました。私は言いました。「私はこれが私たちにとっては 携挙で終わると信じている」と。そして、彼らにとっては、それは 7 年の患難、獣の印、それら全てのもので終わる、と。これは そうやって終わるのです。これは...その時の私は、大胆な発言だったかなと思いました。そこに駆け込むのではなく、歩いて入るべきだったかな、と。私の人生はこればかりです。何かを言った後、「うーん、やっぱり、そんな大胆な事を 言うんじゃないかな〜。」しかし今、振り返ってみると？それがまさに起こっている事なのです。それはまさに起こっています。

6つ目。手短に行きます。ハルマゲドンの戦い。これは黙示録 16 章にあります。これは、第六の御使いが、さばきの鉢をぶちまける時で、地上のすべての王たちと世界の軍隊が、イスラエルのハルマゲドと呼ばれるこの場所に連れてこられて、集められます。イズレルの谷にある、ハル・メギドに。やはり、私たちと一緒にイスラエルに行かれた人は、これを見た事がありますね。見渡す限り...この谷に、世界の全軍隊が...それは本当に最後の戦いです。そしてそれがイエス・キリストの再臨をもたらします。私はゴグとマゴグを最初に置きました。もしかしたら、携挙の直前か、携挙と同時にかもしれません。そして、7 年間の患難の終わりに ハルマゲドンの戦いを置きます。それが 7 つ目のシナリオに繋がります。それは再臨とイスラエルの救いです。ローマ書 11 章 25~27 節を ちょっと読みます。使徒パウロが書いています。

「兄弟たち。あなたがたが自分を知恵ある者と 考えないようにするために、この奥義を知らずにおいてほしくはありません。イスラエル人の一部が頑なになったのは 異邦人の満ちる時が来るまでであり、」
(ローマ書 11 章 25 節)

「こうして、イスラエルはみな救われるのです。(ローマ書 11 章 26 節)

ところで、それは非常に重要です。言い換えれば、教会が取り除かれると、神は焦点のすべてをユダヤ人に移されます。なぜなら、患難時代の目的はユダヤ人国家の救いのためだからです。それが患難の目的です。

「...『救い出す者がシオンから現われ、ヤコブ(イスラエル)から不敬虔を除き去る。...』(26節)

「これこそ、彼らと結ぶわたしの契約、すなわち、わたしが彼らの罪を取り除くときである』と書いてあるとおりです。」(27節)

それにさっと補足し、終わりにします。神はユダヤ人を見放しておられません。しかも、アラブ人が皆さんにそう言っているんです。神はなぜユダヤ人と関係を断っていないのですか？なぜなら、神はユダヤ人と契約されているから。ここが要点です。神は私とも、皆さんとも契約されています。そして、神がユダヤ人を見放しておられるなら、皆さんは、どれくらい安全でしょうか？なぜなら、神はユダヤ人と契約を結んでいるから。最後に確認した所では、それは永続する契約です。皆さん、永続の意味を知っていますか？すごく奥深いですよ。永遠に続きます。永久に続きます。神はユダヤ人との関係を断ってはられません。神はユダヤ人と契約を持たれています。神は私とも、皆さんとも契約を持たれています。適切な英語ではありませんが韻を踏んでいます。好きな様にさせて下さい。だから、神は彼らと契約を持たれています。神は契約を破られません。破れないのです。実際に神にはお出来にならない。神は契約を破ることが出来ないのです。だからこそ、神がアブラハムと契約を交わした時...因みにそこから"cut a deal" (契約を結ぶ)という表現が来ています。その当時は、そのように協定や契約を結んでいました。彼らは動物を切断します。死骸は血まみれになります。そして、両者ともが血と死体の間を歩くのです。これは、、、まだ食事されていない方や、もう食べたくなくなった方、すみません。しかし、彼らは血と動物の間を歩くのです。そして彼らは、もし自分がこの契約を破れば、この動物たちにされたが、自分にもされることになるので誓って、合意するのです。因みにそれは抑止力と呼ばれています。ですから、ここで神は、アブラハムに対してこの契約を結ばれます。アブラハムが神に対して契約を結んだのではありません。アブラハムはそれに署名をしませんでした。どういう意味ですか？ああ～。つまり、神が契約を結ぶために降りてこられ、アブラハムを深い眠りに就かせます。神が降りて来られて、アブラハムに対して契約を結ばれるのです。言い換えれば、皆さんは署名しなかった契約を破ることは出来ないのです。アブラハムは署名をしませんでした。人々が多くの問題にぶち当たるのはこの理由からです。やはり、あまり時間をかけたくありませんが、要点はお分かりでしょう。彼らは言います。「だってね、彼らは契約を破ったんだ。」彼らは一度も署名してなかったんです!!「イスラエルはしくじった。台無しにしたんだ!」「神は彼らを見放されて、教会と置き換えられたんだ!」「神は契約の民として、教会をイスラエルに置き換えられたのだ!」それはしないでください!!!なぜなら、イスラエルを教会に置き換えたら、それは教会を7年間の患難時代に置く事になるから!ちなみに、だから彼らは教会を7年間の患難時代に入れるのです。教会をイスラエルに置き換えたからです。簡単に言えます!!今のは繰り返さないで、皆さんがご理解されたことを願います。でも、それで筋が通りませんか?だから、、、私はよく動画を送っていただきます。それは感謝します。非常に多くのオンラインメンバーが、私たちが既に7年間の患難に入っていると言う人たちの動画を送ってくれます。私たちは7年間の患難に入っていません。最初の部分にも。前半の3年半でも、何でも...御怒り前、、、御怒り前説は最悪です。彼らは患難前携挙に対して非常に敵対的です。因みに私にとっては、それは患難前携挙の信憑性と妥当性を証明します。偽造70ドル札は絶対に目にしませんね。なぜでしょうか。なぜなら、

本物の 70 ドル札なんてものが存在しないから。本物は 100 ドル札です。だから、偽造物、偽物が、本物を認証し、その正当性を証明します。患難前携拳は、真の健全な聖書の真理です。そしてその他の色んな説が、実際にその正当性を立証するのです。それらが偽造品です。それは別の機会の別のトピックですが。主がこの方向に導いてくださるなら、そのうちに、話したいと思っています。なぜ患難前携拳に対する攻撃があるのかについて。その背後には理由があります。とにかく..しかし、イスラエルの家全体が彼らが突き刺したお方を呼び求め、彼らはイエスに戻って来て下さるよう求めます。そして、私たちはイエスの花嫁として、彼の再臨時に、彼と共に来るのです。私は個人的に、これらの事がすべて起ころうとしていると信じています。そしてそれが起きると、私たちが知っている通りの人類歴史の最後の 7 年間を完了します。私たちはもう差し迫っています。それはいつでも起こり得ます。すべて準備は出来ています。ただ時間の問題です。それが起こるのかどうかではなく、いつ、どのくらい間近に起こるかです。私は本当にそれがもうすぐにだと信じています。そうに違いありません。最後にもう一つ言っているのですか？ 私はまだ「最後に」と言ったかどうか分かりません。言っていたなら、これが最後の最後です。聖書預言には保存可能期間、有効期限があります。例えば、エゼキエル書 38 章の国々は今、全て揃っています。巻き戻して 5 年前には、彼らはそうではありませんでした。5 年後に早送り、彼らはまだいるのでしょうか？ COVID-19 とワクチンについて話しましょうか。この勢いがある、あらゆる事がその方向に向かっています。だから、「鉄は熱いうちに打て」とよく言われるように、これらのこと全てには、寿命、有効期限、保存可能期間があります。そしてそれは既に動いており、既に勢いを持っています。そして今や、ただ時間の問題です。さて私は、福音、つまりイエス・キリストの救いの良い知らせと特にオンラインで見ているかもしれないどなたかのために、子供にでも分かる簡単な救いの説明で締めくくりたいと思います。私が今日お話しした事が、本当に皆さんの注意を引いたことを望みます。偶然ではありません。皆さんご存知だと思います。あなたがこのビデオを見ているのは偶然ではありません。神があなたをここへ導かれたのです。今は救いの日だからです。(2 コリント 6:2 参照) 救われるとはどういう意味か、どのように救われるのかを説明したいと思います。福音、すなわち良い知らせとは、イエスが十字架につけられ、葬られ、3 日目によみがえられ、そして、彼はいつか再び戻って来られる事です。それが福音という言葉の意味です。良い知らせです。あなたの負債は支払われた！ 死の罰則は、イエス・キリストがあなたの身代わりに、あなたのために死んだ事により支払われたのです。あなたは自由に行ってよい。

「子があなたがたを自由にするなら、あなたがたは本当に自由になるのです。」 (ヨハネ 8:36)

それが福音ですでは、どのように応答するのか？ ここが、救いの ABC の出番です。

それは非常にシンプルで、子どもにでも分かる簡潔さです。

A：自分が神に背いた罪びとであるのを、また自分には救い主が必要であると Admit/認める または、Acknowledge/認識する。ローマ人への手紙 3 章 10 節、

「正しい者はいない。一人もいない。」 (ローマ 3:10)

ローマ人への手紙 3 章 23 節が その理由を教えてください。

「人は皆 (私たちの誰しもが)、罪を犯して 神の栄光を受けられなくなっています」 (ローマ 3:23)

私たちは皆、誰しもが、神の完全な義の基準に満たないのです。私たちは皆、法を破っているのです。ローマ人への手紙 6 章 23 節は、その判決を下しています。私たちは、判決の段階に入ります。私たちは有罪判決を受け、起訴通りに有罪となり、宇宙の裁判官はあなたを死刑にします。死刑宣告です。

「罪が支払う報酬は死です。...」 (ローマ 6 : 23a)

それは悪い知らせです。しかし、ここで良い知らせがあります。その宇宙の法廷に一人の人が入ってきます。そしてその裁判官に言うのです。「お待ちください。わたしが彼女の代わり、彼の代わりに死にます。」そして裁判官はあなたを見て、こう言います。「良い知らせだ!」「あなたの負債は支払われた。あなたは自由に行って良い。」そして、彼はあなたの代わりに あなたのために死にます。そして彼は、私たちの代わりに 私たちのためにその代価を贖います。それから彼は贈り物として それを提供します。それが贈り物ですよ? 誰かがそれを購入し、贈り物としてあなたにそれを与える。あなたが自分で買ったたり、支払ったりするなら、それは贈り物ではありません。それは購入した物。それが贈り物なら、誰かが支払ってくれて あなたに与えてくれます。それがイエスがなされた事です。彼は私たちの罪のために全額を支払われました。彼は、私たちに神の賜物を提供くださっています。

「しかし、神の賜物は、私たちの 主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。」 (ローマ 6 : 23b)

それが良い知らせです。

B : あなたの心で、イエス・キリストが主であること、神がイエスを死からよみがえらせたことを、Believe/信じる。ローマ人への手紙 10 章 9~10 節、

「...心で神がイエスを死者の中から 復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。」 (ローマ 10 : 9)

最後に C : 主の御名を Call/呼び求める、再度、ローマ人への手紙 10 章 9~10 節、Confess/告白する。

「口でイエスが主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から 復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。」 (ローマ 10 : 9)

「実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。」 (ローマ 10 : 10)

そして最後に、ローマ人への手紙 10 章 13 節、

「主の名を呼び求める者は誰でも救われる。」 (ローマ 10 : 13)

そのシンプルさ。ご起立ください。祈りましょう。主よ、ありがとうございます。聖書預言をありがとうございます。幾つかの場所で、大変詳細に、何が起こるのかを、それが起こる前に 私たちに教えてくださっています。これらの事が起こり始めるのが見えたら、信者は贖いが近づいているのを知って、身を起こし、頭をあげるように。(ルカ 21 : 28 参照)

そして、まだ信じていない人々が あなたに信頼を置くために。主よ、私はこの教会に来られている方やオンラインでご覧の方で、あなたをまだ呼び求めたことがなく、口で告白したことがなく、心で信じたことがなく、罪を認め、罪の赦しのために あなたを信頼していない方が、これ以上もう先延ばしにしない事を 祈ります。彼らが、永遠の命のために自分の人生で 最も重要な決断を遅らせない事を。主よ、今日が彼らの救いの日になりますように。イエスの御名によって。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7